



えがお 愛顔つなぐえひめ国体 みきゃん通信

問 役場 国体推進課 内線4203・4204

No.21

2017(平成29)年に開催される「えがお 愛顔つなぐえひめ国体」。今年度の「みきゃん通信」では、鬼北町で行われる民泊に協力いただく24の民泊協力会の会長から民泊に向けた意気込みなどを聞いていきます(※紹介順は届け出順です)

父野川民泊協力会(父野川／日吉地区)



会長 新谷 修

この民泊が父野川下・中・上に住む住民たちが協力し合い、さらに一丸となれるいい機会であると考え、父野川民泊協力会は結成されました。

今年5月、父野川区の総会に伴い、役場国体推進課の職員を講師に招き、民泊について理解を深める学習会を開いた父野川民泊協力会。講師も驚くほど多くの人に参加したこの日を機に、協力会の人たちには「どこにも負けないおもてなしをしたい」という思いが芽生え、民泊成功に向け、心躍らせながら試行錯誤をしています。そんな住民たちの姿に、新谷会長は「民泊は、国体終了後もみんなの生活にいい影響を与えてくれるはず」と、期待を寄せています。

新谷会長は、「普段は鹿や猿の鳴き声が響く父野川に、子どもたちの明るい元気な笑い声が響き渡ると思うと、とても楽しみな分、辛い別れが待っている。その選手たちとのかけがえのない時間を、父野川区全員が一致団結してしっかりとサポートしていきたい」と、笑みをこぼしながら意気込んでいました。

小松民泊協力会(小松／三島地区)



会長 横山 要

「以前と比べ、小松地区内に住む人たちが交流する機会が少なくなった」と話す横山会長は、この民泊が小松地区に住む老若男女が交流できる1つの場所、そしてきっかけになることを願っています。

今年6月に行われたリハーサル大会を振り返り、「勝負の世界の厳しさを感じた」と話す横山会長。大会中、小松民泊協力会が応援を担っていたチームは、惜しくも初戦敗退となってしまったそうですが、この1日は協力会の人たちにとって、とても充実した日となったようです。横山会長は「えひめ国体では、私たちの応援するチームが1勝でも多く勝ち進んでくれると嬉しい」と、笑みを浮かべながら話していました。

横山会長は、「私たちにとってこの民泊、そして国体は、一生に一度あるかないかの貴重な経験。小松地区のあらゆる世代の知恵を駆使した心のこもったおもてなしをし、選手たちに小松に来てよかったと感じてもらえるよう頑張りたい」と、力強く話していました。